

フォトエッセイ
 フィールドで
 出会う
 暮らしの風景

総合地球環境学研究所
 「砂漠化をめぐる風と人と土」プロジェクト



写真提供者

田中樹(たなか うえる)

総合地球環境学研究所教授。専門は土壌学、農学、地域開発論。

清水貴夫(しみず たかお)

広島大学教育開発国際協力研究センター研究員。

専門は文化人類学、アフリカ地域研究、こども研究。

遠藤仁(えんどう ひとし)

人間文化研究機構 総合人間文化研究推進センター研究員/秋田大学国際資源学研究科(現代中東地域研究拠点)客員研究員。専門は民族考古学。

手代木功基(てしろぎ こうき)

総合地球環境学研究所プロジェクト研究員。専門は地理学。

藤本麻里子(ふじもと まりこ)

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究員。専門は地域研究。

石山俊(いしやま しゅん)

総合地球環境学研究所プロジェクト研究員。専門は文化人類学。

佐々木夕子(ささき ゆうこ)

総合地球環境学研究所プロジェクトメンバー。専門は地域開発論。

宮崎英寿(みやざき ひでとし)

総合地球環境学研究所プロジェクト研究員。専門は境界農学。

石本雄大(いしもと ゆうだい)

総合地球環境学研究所プロジェクトメンバー。専門は地域研究。

フォトエッセイ

フィールドで出会う暮らしの風景

監修・編集：田中樹

編集協力：五十川あき 前田菜月

制作：中村亮太(studio BOW co.,LTD)

発行：総合地球環境学研究所

「砂漠化をめぐる風と人と土」プロジェクト

京都市北区上賀茂本山457番地4

2017年3月24日発行

© 田中樹 2017

私たちは、アフリカやアジアや日本で、人びとの暮らしや生業^{なりわい}、つながり、思っていること、昔々のこと、これから起こるかも知れないことなどを、周辺の自然や建物や雰囲気などとともに調べることを仕事にしています。

その際には、意図的あるいは何気なく、数多くの写真を撮ります。この写真集は、一緒に研究してきた仲間たちが、それぞれの思い出がある写真を持ち寄ってつくられました。

気ままに持ち寄った写真ですので、それぞれのつながりは見えにくいですが、一つだけ共通するものがあります。それは、出会いです。私たちは、あちこちの村や街、畑や森や水辺を歩き、その風景、土や水、風、音、匂い、雰囲気とともに、人びとや暮らしの表情に出会います。

それぞれの写真に、タイトルと短いキャプションを付けました。すべてを表現できてはいませんが、それでも、研究者と呼ばれる何やら謎めいた仕事をしている私たちが、どのような気持ちや眼差しで、人びとと暮らしの風景に出会い接しているのかを感じ取ってもらえれば幸いです。

そして写真を撮る私たちに向けられる人びと—時には動物たち—の眼差しが暖かく優しいことに気が付きます。

この写真集を手にとったあなたは、私たちと出会います。
撮った写真には、私たちの心象風景が重ねられているためです。

はじめまして、そして、ようこそ。

写真集に目を通した皆さんと、いつかどこかのフィールドで再び出会えたら嬉しいです。

愉快な動物たち	001
農村の暮らし	023
調査風景	068
水辺の暮らし	093
食べ物	115
小商いの風景	135
手仕事	150
こどもたちの表情	169
気になるモニュメント	202
乾燥地の暮らし	217
家畜とともにある暮らし	232
印象に残る風景	272



愉快的動物たち



農村の暮らし



調査風景



水辺の暮らし



食べ物



小商いの風景



手仕事



子どもたちの表情



気になるモニュメント



乾燥地の暮らし



家畜とともにある暮らし



印象に残る風景

愉快的な動物たち

アジアやアフリカそして日本でも、さまざまな動物に出会うことがあります。もし見かけたら、やさしい眼差しで、そっと近づいてみてください。とても豊かで、時にはユーモラスな表情を見せてくれます。





「この紋所が見えないか!」、
「ん?、それカメだよ」

道端を歩いていたらカメを拾った。

水戸黄門の助さん角さんになった気分です。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2015年2月

📷 田中樹



泥浴び大好き

栗林さん家の放牧豚。

泥浴びしながらとろけそうな表情。

飼っている間は、できるだけ幸せに過ごせるように
放牧しているのだそうです。

📍 日本・帯広市近郊

📅 2012年8月

📷 田中樹



魚、まだかニャ？

釣り人からのおこぼれをじっと待つ猫たち。
春浅い地中海の風が冷たいけれど、
じっと待っていればいいことがあるかも。

📍 エジプト・アレキサンドリア市

📅 2016年3月

📷 田中樹

お猿さんたち、会議中

雄大な風景の中で猿の家族がヒソヒソと。
何を話し合っているのだろう？

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



コーラ大好き

スーダンの海岸にある小さなレストランのオーナーが
ヤギにコーラを飲ませてた。

ヤギは喉が渴いていたのか一気飲み。

げっぷがでるよ。

📍 スーダン・紅海沿岸

📅 2013年12月

📷 田中樹



ラクダの首は意外と長い

ラクダの背に乗ったら意外な発見。

ラクダの首は、上から見ると細くてとても長いのです。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



雨が降ってきた、急いで帰ろう

エビや魚の養殖池のあぜ道を歩いていたら
急に雨が降ってきた。
雨宿りができるところまで急いで行こう。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



記念写真、犬までポーズ

お世話になっている農家のおじさんとこどもの
記念写真を撮ろうとしたら、犬がポーズを決めていた。
何だか男前だぞ。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2014年3月

📷 田中樹



年取ると杖が離せないんだよ

飼い主が持っていた杖に手をのせて一休み。
ちょっとくたびれた様子と杖が似合っている。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2015年2月

📷 田中樹



痒いけど届かない

首が痒いけど足が届かない。
体を折り曲げてもなかなか届かない。
目と口元がとても真剣。

📍 ベトナム・アルーイ県

📅 2013年9月

📷 田中樹



けばだつとり

水浴びしたのかな？

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2013年1月

📷 清水貴夫



なにかごようで？

村はずれで調査していたらキリンと出会った。
こちらをじっと見ている。

📍 ニジェール共和国・コロ県

📅 2012年6月

📷 清水貴夫



なんだい？

家畜は好奇心が旺盛。

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2013年1月

📷 清水貴夫



もぐもぐ

西アフリカのある地域では、ワニは神様の化身。
村人に貰ったニワトリを食べているところ。

📍 ブルキナファソ・カディオゴ県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫



漁村のにゃんこ

漁師の残した魚を
他のにゃんこから守るために
威嚇するメスにゃんこ。

📍 スーダン・紅海州

📅 2013年12月

📷 遠藤仁



鹿の楽園

鹿は京都では害獣ですが、
隣の奈良では神様の御使いです。

📍 日本・奈良市

📅 2014年11月

📷 遠藤仁



子ウシ用の防寒着

寒さが厳しいモンゴルでは、
体力がないこどもの家畜に防寒着を着せる。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2013年1月

📷 手代木功基



一家団欒で日向ぼっこ

ニホンザルの社会は

雌の親族が強いきずなで結ばれています。

おばあちゃん、3姉妹、孫娘が寄り添って日向ぼっこ。

みんなよく似てるでしょ？

📍 日本・京都市

📅 2002年12月

📷 藤本麻里子



シロアリ出てきた

アリ塚を蹴飛ばしたら壊れちゃった。

驚いたシロアリが右往左往。

ごめんね。

📍 セネガル・タンバクンダ周辺

📅 2015年10月

📷 田中樹



ご自慢のツノ

赤と緑に塗られたツノをもつウシ。
オシャレだね。

📍 インド・タミルナドゥ州

📅 2016年3月

📷 田中樹



笑う犬

うだるような暑さのなか、
ちょっと涼しいところを見つけた犬。
目があったらエへへと笑ったような気がした。

📍 セネガル・ンデム村

📅 2014年5月

📷 田中樹

農村の暮らし

世界の人口の約半分は、農村、山村、漁村に住んでいます。そこに足を踏み入れると、ほっとする風景やさまざまな暮らし、人びとの姿に出会うことができます。あれこれと会話をしていると、いつの間にかその土地にやさしく暖かく包まれるような気がしてきます。



アカシアの樹に養蜂箱

大きな木に養蜂箱がたくさんぶら下がっている。
ここの養蜂箱は丸太をくり抜いて作る。
近づくとミツバチの羽音が賑やか聞こえてきた。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2014年5月

📷 田中樹



アカシアの樹皮を剥いています

ベトナム中部のアカシアは
製紙用のパルプ材としてほとんどが日本に送られます。
紙をつくるのに邪魔になる物質が含まれる木の皮は剥がされます。

📍 ベトナム・ホンティエン県

📅 2013年9月

📷 田中樹

バニラの試験栽培



十数年前に導入し、手探りで始めたバニラ栽培。

このお爺さんは、今では、村人から
「バニラ先生」と呼ばれるようになった。

📍 タンザニア・モロゴロ州 🏠 2015年2月 📷 田中樹

ゴム園での作業



ゴムの木の樹皮に傷をつけると白い樹液が染み出てくる。
毎朝、樹皮に刃を入れ、樹液を集めて回る。
集められたものを加工すると天然ゴムになる。

📍 カンボジア・北部 📅 2011年3月 📷 田中樹



ササゲの茎と葉を 家畜市まで運ぶところ

ラクダが引く荷車に満載しているのは
ササゲという豆の茎と葉。
家畜が好み、栄養満点。

📍 ニジェール・ニアマー市近郊

📅 2014年12月

📷 田中樹

ササゲ畑で除草中

「押しスキ」と呼ばれる柄の長い農具で除草中。
日本にある鋤のように引くのではなく、
押して雑草の根と茎を切断する。

📍 セネガル・中西部ルーガ市近郊

📅 2013年9月

📷 田中樹



シナモンの袋詰め

シナモンの樹皮を剥いで乾燥させ、
袋詰めして買い入れ業者を待つ。
かさばるので体重をかけてぎっしりと袋に詰め込む。

📍 タンザニア・モロゴロ州

📅 2014年7月

📷 田中樹



野菜畑を見回り中

汲み上げた地下水を使って、村の女性たちが乾季に野菜を作っている。

毎日畑に集まり、農作業したりおしゃべりしたり。

男たちは街に出稼ぎに出ているので、乾季の村は女性たちの世界だ。

📍 セネガル・中西部

📅 2014年6月

📷 田中樹



ちょっと隣村まで

土の道をぶらりと歩いて隣村まで行くところ。
キリマンジャロ山の中腹の農耕地帯に吹く風と
強い日差しをいっぱい浴びて。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2015年2月

📷 田中樹



バナナ運搬中

キリマンジャロ山の周辺では、バナナは主食の一つ。
家の周りに植えたバナナを収穫して、
町の市場まで運ぶ姿があちこちで見られる。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2014年3月

📷 田中樹



ひよこ生まれたかな

竹で編んだかごの中には、卵を温める親鶏がいる。
お爺さんが優しい表情で覗き込んでいる。

📍 ベトナム・ホンティエン県

📅 2014年5月

📷 田中樹



ブータンの犁

ブータンの農村を歩いていたら、
こどもが犁を見せてくれた。
この犁は、牛に引かせて土を耕すのに使われる。
起源はインドかな。

📍 ブータン・フォンデュポダン市近郊

📅 2007年10月

📷 田中樹



みんな携帯持ってるよ

携帯電話は世界中に普及している。

町から車で丸一日かかる村でも。

友達とおしゃべりしたり、家族にお金を送金したり、
仕事の打ち合わせをしたり。

📍 ブルキナファソ・バム県

📅 2011年1月

📷 田中樹



メイズ干し

収穫したメイズの皮（包葉）を剥いて結び合わせ、木に掛けていく。

メイズの身は乾燥させて貯蔵し、必要量を取り出して粉に引いてンシマと呼ばれる練り粥にします。

📍 ザンビア・南部州

📅 2008年3月

📷 田中樹



黄土を耕す

中国の黄土高原は、
昔々、風で運ばれた細かい土が積もってできた。
その厚さは数百メートルもある。
ロバで土を耕し、アワ（中国では小米を呼ぶ）の種を
播いているところ。

📍 中国・黄土高原

📅 2014年5月

📷 田中樹



乾季かんがい畑の足踏みポンプ

足踏みをしながら水を汲み上げる道具。

中国からの製品だと言っていた。

畑では、玉ねぎやインゲン豆が栽培されている。

📍 ブルキナファソ・カヤ市近郊

📅 2011年1月

📷 田中樹



急斜面を横切る伝統かんがい水路

ケニア西部のケリオバレーでは、
斜面を縫うように小さな水路が引かれている。
雨水に頼ることができない乾燥地で、
この水を使って穀物や野菜が栽培されている。

📍 ケニア・西部

📅 2007年3月

📷 田中樹



堆厩肥置き場

家畜の糞は、作物を育てる大切な肥料。
村のなかに貯め置かれた家畜糞は、
雨季の後半に畑に運ばれ薄く広くばら撒かれる。

📍 ニジェール・ニアメー市近郊

📅 2011年11月

📷 田中樹



畑耕してるのさ、マッチョだろ

力強く鍬を振るう男性。
硬く締まった土を掘り上げ、
砕き、柔らかくして作物の種子を播く。

📍 スーダン・ハルツーム市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



パロの家と唐辛子

寒さの厳しいブータンでは、
唐辛子は冬の間の大切な食糧。
収穫した赤い唐辛子を窓からぶら下げて
乾燥させている様子は、
何かの飾りのようで美しい。

📍 ブータン・パロ市

📅 2007年10月

📷 田中樹



カルダモンの畑

カルダモンはショウガの仲間の香辛料作物。
インド・ケララ州の山間部では、
木々の間を埋めるように一面にカルダモンが植えられている。

📍 インド・ケララ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



アルカイダ(?)のアジトにて

結婚式に参加するために
オメカシしているだけです。

📍 ブルキナファソ・ロルム県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫



タマネギを降ろして卸す

乾季に入り、植え付けたタマネギを収穫すると、隣国からの業者がすぐ買い取っていきます。

📍 ブルキナファソ・中北部

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



黄金の野を行く

小麦の刈り取り前の時期に、
水汲みのために井戸へ向かう女性。

📍 インド・ラージャスタン州

📅 2014年3月

📷 遠藤仁



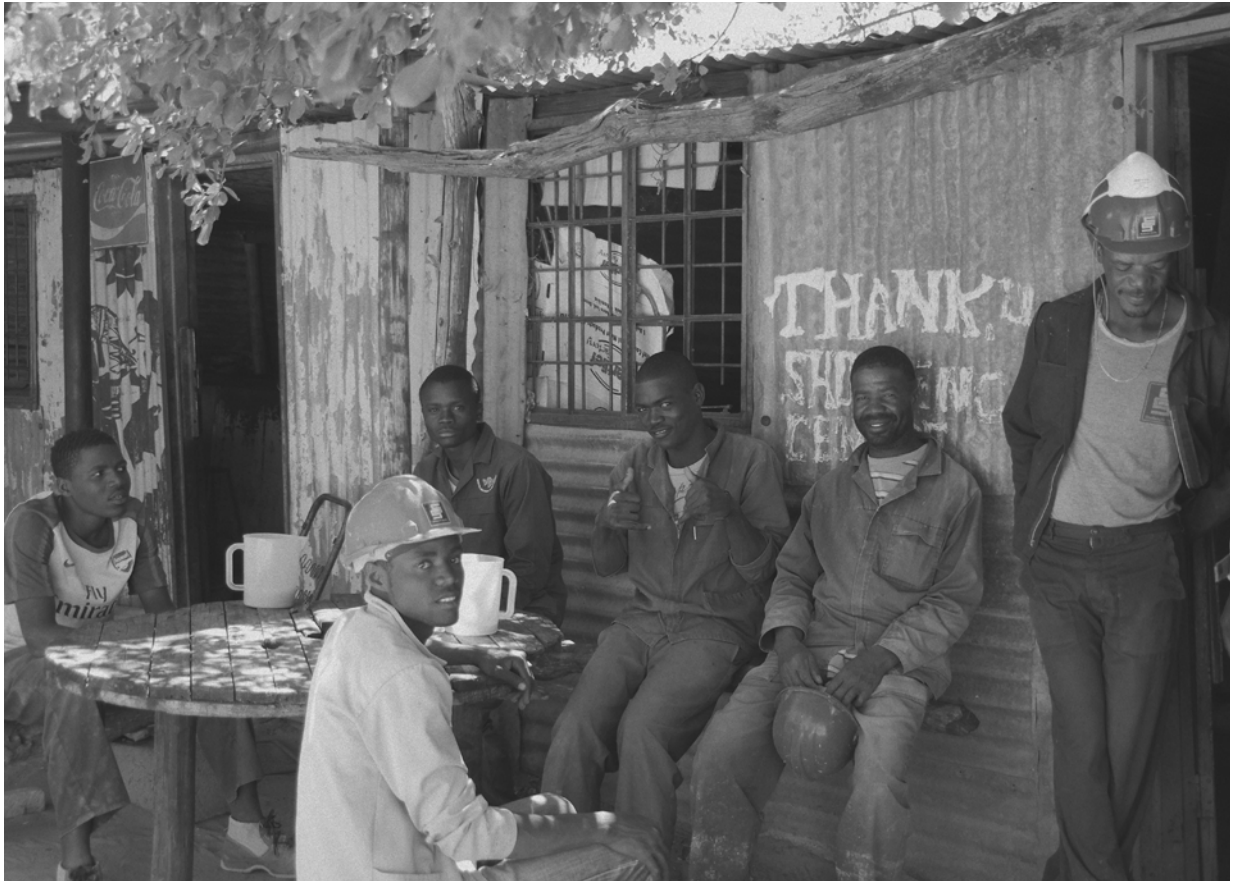
雨季の一コマ

雨季のにわか雨を避けるために、
軒先にたたずむ男性。

📍 インド・オディシャ州

📅 2014年9月

📷 遠藤仁



建設作業の合間に

市街地の急拡大が進む
ナミビアの中小都市の一角にて。

📍 ナミビア・オシコト州

📅 2013年10月

📷 手代木功基



家財道具を全て詰め込んで

季節的に移動する
モンゴル牧民の引っ越しの一コマ。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2015年7月

📷 手代木功基

Dance!



お土産に頼まれていた上着をもっていったところ・・・

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2015年2月

📷 清水貴夫



かっこよかる？

おじいさんに持っていったトレーナーは
いつのまにやら孫の手に。

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2015年2月

📷 清水貴夫



歓待

お世話になっている農家さん。
いつも夫婦で来訪を喜んでくれます。
手にもつのは、ドロ（ソルガムのビール）。

📍 ブルキナファソ・バム県

📅 2015年2月

📷 清水貴夫



モロコシの収穫

収穫のよろこびが静かな微笑みににじみ出る。

📍 ブルキナファソ・ニャニャ県

📅 2011年11月

📷 石山俊

うしろすがたの待たれていくか



誰のために働くのだろうか。
自分のため、家族のため。
家に待っている家族がいる。

📍 ザンビア・南部州 📅 2016年10月 📷 石山俊

渴きを癒やせ



農作業を一休み。
耕地の周辺に植えられたココヤシは
いくらでもジュースを提供してくれる。

📍 インド・タミルナードゥ州 📅 2015年3月 📷 石山俊



サヴァンナの篤農家

バービクルさんのモロコシは
小雨にまけずすくすくと育つ。

📍 スーダン・ガダーリフ州

📅 2011年10月

📷 石山俊

蜂蜜あるかな？



最近養蜂を始めたベトナムの農民。

養蜂箱を開けて、蜂蜜の集まり具合を確認中。

このあたりはアカシアの造林地で、美味しい蜂蜜が獲れる。

村の特産品にできるかな？

📍 ベトナム・ホンティエン県 📅 2014年5月 📷 田中樹



トウジンビエの種まき風景

サヘル地域の人びとの主食となるトウジンビエの播種は、2人ペアで行います。前の人が鍬で穴を掘って行き、後ろの人がその穴にトウジンビエの種をバサっと入れて、足で掘り返した土をかぶせて次の穴へ…慣れるまでにはなかなか大変な作業です。

📍 ニジェール・南西部

📅 2009年6月

📷 佐々木夕子



家族総出で家づくり

この時期のニジェールは一年で最も暑い時期。

日中の気温は50度近くまで上がります。

そんな中、雨季の到来を前に家族総出で家の建築を行います。

こんなに小さなこどもだって立派な働き手です。

📍 ニジェール・南西部

📅 2012年5月

📷 佐々木夕子



厩肥を撒く

春の日差しになってきた黄土高原。

そろそろ種まきの季節。

家畜小屋から運んだ厩肥を丁寧に撒いていく。

📍 中国・黄土高原

📅 2014年5月

📷 田中樹

この石、高いのよ



金が含まれている鉱石を拾いに行った帰り。
へそくりになるんだって。

📍 ブルキナファソ・中部 📅 2011年1月 📷 田中樹



播種の準備

雨季が始まると家族総出で播種の準備を始めます。
こどもだからといって遊んでばかりではありません。

📍 ザンビア・南部州

📅 2007年11月

📷 宮寺英寿

ネコの手も かりたいわ!

11月の収穫期は大忙し。

📍 ブルキナファソ

📅 2011年11月

📷 石山俊



おじいちゃんの収穫

収穫したソルガムを自転車で運搬中。

📍 ブルキナファソ

📅 2011年11月

📷 石山俊



ソルガムの貯蔵

収穫したソルガムを投げ入れたあとに屋根をのせる。

📍 ブルキナファソ

📅 2011年11月

📷 石山俊



紅玉髓製首飾りをつけた女性

出かけるときも仕事するときも大切に身に付けています。

📍 インド・ナガランド州

📅 2014年12月

📷 遠藤仁

調査風景

街や野や畑や水辺を歩き回り、人びとと話をし、土や植物に触れ、建物や農具に触り、雨に濡れ風に吹かれ、ごはんを食べたりくつろいだりすることが私たちの調査活動の基本です。とてもまじめな顔をして、いろいろなものを測り、聞き取り、記録し、少しだけ小難しい話をするもありますが、その前に一個の人間としてその土地の人びとや風土になじむことを大切にしています。



村人と設置した簡易雨量計



立ち枯れた木を使って雨量計を設置した。
村人のアイデア。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州 📅 2015年2月 📷 田中樹



後ろにゾウがいるよ

川面から土地利用の観察。

ふと気が付くと、ゾウが草を食べていた。

📍 ザンビア・ザンベジ河

📅 2009年9月

📷 田中樹



オヤジ研究者たち、たばこ休憩中

調査の合間にたばこ休憩中。

嬉しそうに笑っている。

そんなに美味しいのかな？

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年6月

📷 田中樹



昼食はお肉だよ

アフリカの田舎に調査に行くと食堂などは見当たらない。
道端の屋台でヤギやヒツジの炭火焼きを買ってお昼ごはんにする。

📍 ブルキナファソ・バム県

📅 2011年1月

📷 田中樹

このくらい
足が長かったらいいね

夕暮れ時の砂漠。
環境の厳しいところで調査をするときは、
ときどき遊び心を持つことが大切。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



サヘルの村を走る

砂地の道を走るときは四輪駆動車が頼もしい。
格安で借りている古い車だけど、
優しく滑らかな運転で奥地に入っていく。

📍 ブルキナファソ・ウダラン県

📅 2007年11月

📷 田中樹



たまたま立ち寄っただけ、 サボってないよ

フィールド調査で立ち寄ったインド洋岸のリゾート。
青い海と白い砂がまぶしい。
泊まることはできないけど、雰囲気だけでも楽しもう。
たまには息抜きも必要だし。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



マサイの村で乳搾りの撮影中

マサイのお母さんの朝一番の仕事は
搾乳（ミルクを搾ること）。
その様子を撮影中。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



家畜による 井戸水の汲み上げ体験中

牛たちがグルグル回ることによって井戸から水を汲み上げる。
そのスピードを実感するために回転する柄に乗ってみる。
遊んでいるわけではないよ。

📍 インド・ラージャスタン州

📅 2012年7月

📷 田中樹

急がないと置いてくよ

現地を案内してくれるマサイのジェレミアさんと
研究者のクリスティーンさん。

「もっと早く歩かないと日が暮れるよ」と言っているのかな。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



現地の若者と調査中

村の若者と作物の生育を調査中。
何日も一緒に働くと、
なかなか立派な研究者になってくる。

📍 ザンビア・南部州

📅 2008年3月

📷 田中樹



購送機材を梱包中

研究所で調査機材を作動確認し、梱包する。
地味だけど大切な準備作業。

📍 日本・京都市

📅 2012年9月

📷 田中樹



穀物倉の調査中

土で作った穀物倉を調査する研究者。
村人は興味津々。

📍 ニジェール・テッサウア市近郊

📅 2010年12月

📷 田中樹



実験圃場の整備中

ニジェールにある研究所の試験圃場に観測機器を設営中。
大きな穴を掘って、観測機材を設置し、再び土を埋め戻す。
強い日差しの下で何日も力仕事。

📍 ニジェール・ニアマー市近郊

📅 2010年12月

📷 田中樹



土壌調査中

土壌調査の様子。

自分で穴を掘り、土の色や柔らかさや粘りなどを記録する。

難しそうな調査に見えるけど、

土遊びをすることのように楽しい仕事。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



日仏ケニア合同調査隊の 食事風景

フィールド調査から戻ったらお昼ごはんが待っていた。
お米とヤギ肉の煮物とゆでたジャガイモ。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹

風景に溶け込む

土地利用の調査中。
ココヤシのプランテーションと水田。
ため池の水面に研究者の姿が映っている。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2016年3月

📷 田中樹

物思いにふける

「月面世界 (moon landscape)」と呼ばれる乾燥地の風景。
広大で荒涼とした風景を前に何を思うのかな？

📍 ナミビア・スワコプムント市近郊

📅 2016年9月

📷 田中樹



温度を測る（土器焼き）

インドでは素焼きの土器が現役で使われています。
これは土器づくりの際の焼成温度を調べています。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2014年12月

📷 遠藤仁



温度を測る（牛糞燃料）

インドでは家畜のウンコも貴重な燃料源。
これはその燃料の熱量を調べています。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2014年3月

📷 遠藤仁



温度を測る（紅玉髓ビーズ）

紅玉髓（カーネリアン）をより美しい色にするために、熱を加えます。その加熱温度変化を調べています。

📍 インド・グジャラート州

📅 2013年12月

📷 遠藤仁



井戸の深さを測る

レーザーを使って距離を測る機材で井戸の深さを調べる。
落ちないように慎重に。

📍 セネガル・タンバクンダ周辺

📅 2015年10月

📷 田中樹

遊び心



調査をしていたら野生動物の骨を見つけた。
お面にして記念撮影。

📍 ケニア・リフトバレー州 📅 2016年10月 📷 田中樹



聞き取りチュウチュウ

宮寄英寿さんが家畜の飼育状況を
インタビューしているところ。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊

水辺の暮らし

水辺には、魚を獲ったり、洗い物をしたり、舟を使って移動したり、水とともにある暮らしがあります。大波や嵐や洪水に見舞われることもありますが、そこに住まう人びとに海や川や湖からの恵みを与えてくれます。水辺にたたずむと何だかほっとする気持ちになるのは、ヒトになる前の遙か昔ー私たちの遠い祖先が海で生まれた頃ーを懐かしむからかも知れません。





インド洋のダウ船

タンザニアの漁民は白い一枚の帆を張った小舟を操り漁に出る。
どんな魚が獲れたかな。

📍 タンザニア・タンガ州

📅 2014年3月

📷 田中樹



カエル養殖中

家のそばの水路で飼われるカエル。
そろそろ市場に売りに行こうかな。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



これからカゴ漁にでるところ

不安定な小舟を操り漁場まで。
ねらいはカニかな、エビかな？

📍 フィリピン・カリボ市近郊

📅 2014年2月

📷 田中樹



ゆっくりこがないと沈むからね

大人3人、おもちゃのような舟で水路を渡る。
慎重に漕がないと水が入ってくるよ。

📍 ベトナム・メコンデルタ

📅 2015年2月

📷 田中樹



養殖した海藻を干しています

寒天の材料になる海藻を収穫して
浜辺で干しているところ。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2013年8月

📷 田中樹



漁船

外洋に出て魚を獲るためのちょっと大きめの漁船。
帆を張って風の力で動かします。

📍 タンザニア・タンガ州

📅 2014年3月

📷 田中樹



魚を獲ってます

エンジン付きの小舟で沖に向かう。
乗組員が多いけど、何を獲りに行くのかな。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



軽快に水面を滑るボート

川の中州にある農地に向かうボート。
陽射しを遮るものがないので、船に屋根をつけている。
仕事の合間に休憩したりお昼寝したり。

📍 ベトナム・ホイアン市近郊

📅 2008年6月

📷 田中樹



四手網

この網を沈めて、何時間かあとに引き上げると
魚やエビが獲れるという仕掛け。

大漁は期待できないけど、
食事のおかずやこずかい稼ぎにはなる。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2013年9月

📷 田中樹



舟をつくってます

舟は暮らしの必需品。手造りします。

📍 カンボジア・シェムリアップ近郊

📅 2012年3月

📷 田中樹



小舟は大事な移動手段

人をいっぱい乗せて水面を滑る渡し船。

📍 フィリピン・カリボ市近郊

📅 2015年2月

📷 田中樹



竹づくりの高床の家

竹で組まれた家屋。
雨季になると床近くまで増水する。

📍 カンボジア・シェムリアップ近郊

📅 2012年3月

📷 田中樹



昼下がりの漁村

うだるような暑さの昼下がり。
人びとが昼寝をしている間、
小舟は涼しげに水面でまどろむ。

📍 セネガル・サンルイ市

📅 2013年9月

📷 田中樹



渡し船

バイクも自転車も人びとも積み込んだ渡し船。
そろそろ出航かな。

📍 ベトナム・ホイアン市

📅 2013年3月

📷 田中樹



投網で魚をねらう

透き通った海に泳ぐ魚。
狙いすまして投網を投げる。
獲れたかな。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



養魚池の上のトイレ

養魚池に張り出したトイレ。
人が落とした養分で植物プランクトンが育ち、
それを魚が食べる。

📍 インドネシア・ボゴール市近郊

📅 2013年4月

📷 田中樹



渡し舟

インドの一部地域では今でも舟が渡河の唯一の手段。
人もバイクも運びます。

📍 インド・オディシャ州

📅 2015年5月

📷 遠藤仁



イワシの売買風景

タンガニカ湖の特産品である小魚が
浜辺で売買されている様子。

買い手はサイズや魚種を見定めて熱心に値段交渉をします。

📍 タンザニア・タンガニカ湖畔

📅 2013年9月

📷 藤本麻里子



カタクチイワシの水揚げ

インド洋産のカタクチイワシが水揚げされている様子。
女性たちは腰まで海につかって、
頭に20kgのいわしを担ぎ、
買い手の加工場まで運んでいきます。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年8月

📷 藤本麻里子



大物が獲れたぜ

カタクチイワシ(小魚)を獲っていたら、
こんな大物が網にかかることも。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2013年8月

📷 藤本麻里子



雨の中の洗濯

雨季の間、洗濯は大変です。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年8月

📷 遠藤仁

食べ物

フィールド調査の楽しみの一つは、いろいろな食べ物に出会うことです。食べ物は、それぞれの土地で人びとの暮らしを彩ります。私たちの目の前にある食べ物は、作物や肉をつくり、魚を獲り、時には山菜やきのこを集め、燃料や水を運び、火加減や味をみながら調理したりと、多くの人びとの手を経てものです。そこには、昔からの知恵や暖かい思いやりも込められています。みんなで一緒に「いただきます!」。





朝ごはんはブン

フエの朝食の定番はブンと呼ばれるコメの麺。
レモングラスの香りのする酸っぱ辛いスープ、
カニ肉の入ったつまれ。
生のハーブをどっさり入れていただきます。

📍 ベトナム・フエ市

📅 2013年7月

📷 田中樹



今日のお昼はごちそうだ

タンザニアの田舎の食堂にて。

ごはん、テラピアの素揚げ、塩味を付けて煮たインゲン豆、ニガナスの煮物。栄養満点。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2015年3月

📷 田中樹



セネガルの定番料理・チェブジェン (都会風)

チェブジェンは魚の煮汁でお米を炊き上げたもの。
ニンジンやキャベツ、ナス、サツマイモ、魚の身などがのっかっている。
都会風で盛り付けが上品。

📍 セネガル・ダカール市

📅 2013年9月

📷 田中樹



セネガルの定番料理・チェブジェン (田舎風)

塩漬けしたニシンのような魚の煮汁で炊き上げたチェブジェン。
都会のものと比べて脂っこくなく、とても食べやすい。

📍 セネガル・中西部

📅 2015年2月

📷 田中樹



しゃれたお店のローカル飯

テーブルクロスが敷かれたちょっとおしゃれな食堂。
今日のお昼は定番のチェブジェン。

📍 セネガル・サンルイ市

📅 2014年7月

📷 田中樹



ごはん屋台にて

ソルガムの粉を水で溶いて薄焼きしたキスラ、
ヒツジ肉の煮物、パン、生玉ねぎのライムがけ。

📍 スーダン・ガダーレフ市

📅 2013年12月

📷 田中樹

すっぽんの蒸し煮



すっぽんを養殖している農家を訪ねたらお昼をご馳走してくれた。

すっぽんの香草蒸し。

ワイルドな見かけだけど繊細な滋味。

📍 ベトナム・フエ市近郊 📅 2011年6月 📷 田中樹



トカゲは高級食材

村の食堂の厨房をのぞいたら手足を縛られたトカゲがいた。
注文しようとしたら先約済みだった。

📍 ベトナム・ホンティエン県

📅 2019年9月

📷 田中樹



下町食堂のムサカ

ひき肉とナスとトマトに唐辛子を加え
たっぷりのオリーブ油で炒めたムサカ。
飾り気はないけど、
これを目当てにたくさんのお客さんが来る。

📍 トルコ・イスタンブール市

📅 2015年2月

📷 田中樹



蒸し芋にはライムを添えて

道端で蒸したサツマイモを売っていた。
ライムをかけて食べるのがインド風。
斬新な風味。日本で流行るかも。

📍 インド・ハリヤーナ州

📅 2016年11月

📷 田中樹



みんなで囲んで食べる 大皿の炊き込みごはん

砕いた干魚、トマト、玉ねぎ、にんじんなどで炊き上げたごはん。
焦がしたごはんとタマリンドのソースを上にかける。
大皿を囲んでみんなで一緒に食べる。

📍 セネガル・中西部

📅 2014年7月

📷 田中樹



南インド料理は地球を救う

南インドのベジタリアンミール。

使われている食材は、香辛料を除いて、

半径数km以内でつくられたもので、フードマイレージが小さい。

食べても食べても次々と継ぎ足してくれる。

環境に優しく、美味しく、お腹いっぱい食べられる。

📍 インド・ハリヤーナ州タミルナードゥ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



おもてなし

香草を焚くサービスつきの
シャイ・ナーナー（ミント入り紅茶）。

📍 スーダン・カッサラ州

📅 2013年12月

📷 遠藤仁

天竺の天麩羅を揚げる男性



インドの野菜を小麦粉の衣で包んで揚げた軽食パコラ。
菜食のため、衣に卵は混ぜません。

📍 インド・ラージャスターン州 📅 2014年12月 📷 遠藤仁

サヴァンナの台所? 男子厨房ニ入ルベカラズ?



楽な仕事ではないけれど、
サヴァンナの女性が生き生きするとき。

📍 ブルキナファソ・ニャニャ県 📅 2011年11月 📷 石山俊



巨大ウガリを皆で練る

結婚式の当日、花嫁の親族の女性たちが
列席者のための食事を準備しています。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州西部

📅 2011年11月

📷 藤本麻里子



本日のお弁当

日帰り放牧にもっていくお弁当と牧夫。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2014年9月

📷 宮寺英寿



ケーキ焼き

木の実の粉をしめらせ、ホットケーキ状にしたものを、木の葉で包み、砂の下に入れ、蒸し焼きにしています。

📍 ブルキナファソ・北部

📅 2006年2月

📷 石本雄大



ハンドメイド麺

南インドの小さな村にある手作り麺工場の風景。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊

小商いの風景

暮らしを支えるためにいろいろなモノやサービスがやり取りされます。小さな規模で行われるそれらの取引を小商いと呼んでいます。その場所は、村の市場の片隅だったり、路上だったりします。時には、商売そっちのけでおしゃべりをして一日が終わることがあります。そこには、人と人の出会いや交流があります。





おしゃべりに夢中

揚げパンや野菜、イモなどをめいめいに持ち寄って商い中。

みんなおしゃべりに夢中で、商売する気がないみたい。

お母さん方は、欲しい品物を物々交換してお昼過ぎにはお家に帰って行った。

📍 タンザニア・モロゴロ州

📅 2014年7月

📷 田中樹



サツマイモ、売ってます

掘りたてのサツマイモをきれいに洗って売ってます。
形は不揃いだけど甘くておいしいんだって。

📍 フィリピン・カリボ市

📅 2015年2月

📷 田中樹

道端の野菜売り

地面に並べた野菜。
あまり売れているようには見えないけど、
いつの間になくなっていった。

📍 ブータン・中部

📅 2007年10月

📷 田中樹



むらの市場

村の市場。農民や牧畜民が売り物を手に集まり始め、
だんだん賑やかになってきた。

📍 ニジェール・ニアマー市近郊

📅 2010年10月

📷 田中樹



金魚を売ってます

金魚を売る行商のバイク。
ビニール袋に入った金魚が涼しげに見える。

📍 ベトナム・ダラット市

📅 2012年2月

📷 田中樹



今日はお肉がお買い得

山の村の常設市場。

さばきたてのブタのお肉やモツが並んでいる。

📍 ベトナム・アルーイ県

📅 2012年9月

📷 田中樹



小さな町のレストランにて

黒板に書かれたフランス語のメニュー。

勘違いかも知れないけど、

美味いごはんを出してくれそうだ。

📍 ニジェール・テッサウア市近郊

📅 2011年11月

📷 田中樹



にぎわう市場

何を売っているかは判然としないけれど、
たくさんの人びとが行き交う市場。

📍 ブルキナファソ・バム県

📅 2011年1月

📷 田中樹

朝ごはん屋さん



道端に朝ごはんの屋台が立つ。

お奨めはオムレツを挟んだフランスパンとカフェオレ。

📍 ニジェール・マラディ市 📅 2015年7月 📷 田中樹

道端の小商い

人びとが野菜や香草を持ち寄ると、
村の道路は市場に一変する。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2015年7月

📷 田中樹



路上のエスティシャン

眉毛を整えているところ。
いろいろな小商いがあるものだね。

📍 ベトナム・アルーイ県

📅 2013年3月

📷 田中樹



路地裏のアトリエ

ストーンタウンの細い路地を迷っていたら
色鮮やかな絵を売っていた。
でも、売り手もお客さんも見当たらない。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



お客さんがきませんが・・・

バンフォラの森の中にポツリと置かれた民芸品屋の品物。
人通りはなく、こんなところで売れるのだろうか？

📍 ブルキナファソ・バム県南西部

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



市場のごはん屋さん

市場にあるごはん屋さん。
威勢のいいおばさんがきびきびと働いている。
うちのランチは大盛りだよ。

📍 セネガル・ダカル市

📅 2015年6月

📷 田中樹

手仕事

それぞれの土地にある素材を使って、人びとはさまざまなものをつくります。真剣な眼差しを注ぎ、汗をかき、手にマメをつくりながら生み出されるそれらには、美しさや魂が宿ります。人の手は、すごいなあと思います。





バニラの加工中

バニラは収穫してから熱いお湯に10分くらい浸け、その後、毎朝数時間ほど日光を当ててカビの繁殖を抑え、保温性のいい箱に入れ暗所に置くことを繰り返します。そのうちとても良い香りがするようになります。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2016年3月

📷 田中樹



アンドロポゴンで編んだゴザ

アンドロポゴンは西アフリカに自生するイネ科の草。
長い茎を編んで、ゴザにして、
穀物倉をつくったり市場に売りに出したりします。

📍 ニジェール・テッサウア市近郊

📅 2011年11月

📷 田中樹



土産物作ってます

マサイの人びとが観光客向けに土産物を買っている場所の片隅。
鍛冶屋さんが売り物の短刀をつくっていた。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



作物の稈で編んだ穀物倉

収穫した作物の穂を蓄えておく穀物倉。
壁は作物（トウジンビエ）の稈で作り、
雨季に湿らないように地面から浮かせるようにしつらえる。

📍 ニジェール・ニアメー市近郊

📅 2011年11月

📷 田中樹

家畜の餌にするバナナの茎を薄切り中



バナナは一本の茎に一房の実をつける。

収穫した後の茎は、薄切りにして家畜の餌に。

このひと手間で、鶏も豚もヤギも喜んで食べる。

📍 ベトナム・ホンティエン県 📅 2014年5月 📷 田中樹



穀物倉の壁を編む

穀物倉の壁をつくっている様子。

内側にはアンドロポゴンという野草の茎、

外側にはトウジンビエの稈を使い、張り合わせるように編んでいく。

📍 ニジェール・ニアメー市近郊

📅 2009年12月

📷 田中樹



山岳少数民族による伝統的織物・ゼン

ゼンはベトナム中部の山岳少数民族の伝統的な織物。
竹でできた道具と身体を組み合わせながら、
色染めした木綿糸から手際よく布を織っていく。

📍 ベトナム・アルーイ県

📅 2007年9月

📷 田中樹

村の大工さん



小さな村を歩いていたら
村の大工さんが木材にかんなをかけていた。
お爺さんが座る椅子をつくっているんだって。

📍 タンザニア・タンガ州 📅 2015年7月 📷 田中樹



土でつくった穀物倉

穀物倉は土で造られることもある。

細く長い灌木を芯にして、ワラやアカシアの莢や水を混ぜて一週間ほど熟成させた土を練り込んで薄い壁をつくる。

なめらかな曲線が美しい。

📍 ニジェール・マラディ市近郊

📅 2010年12月

📷 田中樹



Concentration

一生懸命、慎重に。NGOが運営する作業場。
ここで作られたものは、
遠くヨーロッパに売られていくこともあります。

📍 セネガル・バンベイ市

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



糸を紡ぐ手

コットンがよく取れるセネガルでは、
美しい手つきで紡ぎます。

📍 セネガル・バンベイ市

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



僕もいつかお手伝い

お母さんたちに抱かれながら仕事を見守る赤ちゃんたち。
いつか彼らもお母さんをお手伝いすることでしょう。

📍 セネガル・バンベイ市

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



燠寂

Leleという民族の家屋の中の炊事場。

室内で唯一外に繋がるのは排煙のための小さな穴だけ。

その穴から差し込むうっすらとした光が照らす

土作りの道具はとても美しい。

📍 ブルキナファソ・ペルコア村

📅 2014年12月

📷 清水貴夫



カッセーナの家作り

伝統的な家屋。

女性たちが壁の色塗りをしている。

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2013年1月

📷 清水貴夫



カッセーナ女性の家

女性が住まう家。壁の様子が美しい。

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2013年1月

📷 清水貴夫



チャーニング

伝統的な用具を使ってバターをつくる女性。

📍 インド北西部・ラージャスターン州

📅 2014年8月

📷 宮崎英寿

塩田

塩田で出来た塩を運ぶために
鍬で集めているところ。

📍 インド北西部・グジャラート州

📅 2012年10月

📷 宮崎英寿



籠編み



木の枝を編んでかごを作っているところ。

📍 ザンビア・南部州 📅 2008年2月 📷 宮崎英寿

こどもたちの表情

こどもたちを見ていると気持ちが温かく柔らかくなることに気が付きます。言葉や服装や住むところが違って、それは、かつての自分自身だからです。気さくに「元気？」と目で語りかけると、こどもたちとその心が静かに近寄ってきます。





皆さん、熱狂しましょう

面白いTシャツを着ている少年に出会った。
どこで買ったのって聞いたら、
お母さんが古着を売っているお店で買ってきたんだって。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



ウシのごはんを運んでいるの

稲わらを運んでいるこどもが一休み。

自分の体よりも大きな荷物。

お家でウシが待ってるよ。

📍 ブータン・西部

📅 2007年10月

📷 田中樹



僕は宇宙から来たんだよ

小さな宇宙人に出会った。
こどもの発想は、どこにいても豊かだね。

📍 ブータン・西部

📅 2007年10月

📷 田中樹

お姉さんの髪を結っているの

こどもたちがお姉さんの髪を結っている。
やさしく親密な雰囲気。
サバンナの柔らかい風がさらりと吹きぬけた。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹

お父さんが使っている 押しスキだよ

西アフリカの半乾燥地で
使われている農具とおなじものを
スーダン東部でも見つけた。
使い方を説明する少年は
ちょっと得意げだ。

📍 スーダン・カッサーラ市近郊

📅 2014年12月

📷 田中樹



ガキ大将が通るぞ

小さな子どもを引き連れてガキ大将が歩いてゆく。
日本でも昭和30年代頃まではよく見かけた光景。
懐かしいな。

📍 スーダン・紅海沿岸

📅 2014年12月

📷 田中樹



ヤギさん、草たべる？

ヤギにキャッサバの葉をあげるこども。

生だと毒を持つ品種のキャッサバもあるから気を付けてね。

📍 ベトナム・アルーイ県

📅 2007年9月

📷 田中樹



何して遊んでるのかな？

コンクリートの上で何かを描いて遊んでいる。
何してるのって聞いても、
はにかんで教えてくれなかった。

📍 スーダン・中部

📅 2014年12月

📷 田中樹



写真撮るよ、みんな笑顔

写真を撮ってとこどもたちにせがまれた。
心の底から笑顔だね。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2015年3月

📷 田中樹

水っていいね



ナミビアはほとんどが沙漠気候で、水はとても貴重な。
自噴井戸（地下水が自然に噴出している井戸）で遊ぶこどもたち。
ちょっとぬるぬるするけど、水っていいね。

📍 ナミビア・中部 📅 2011年12月 📷 田中樹



水運び

ロバを操り水運びをする兄弟。
こどもたちが家のお手伝いをするのは当たり前。

📍 スーダン・カッサーラ市近郊

📅 2013年12月

📷 田中樹



制服は国旗の柄

この村は標高が高いのでとても涼しい。

セーターが制服。

よく見るとタンザニアの国旗の柄だね。

📍 タンザニア・キリマンジャロ州

📅 2014年3月

📷 田中樹



草が移動している? 家畜の餌を運ぶ女の子?

草がてくてくと移動している。

こどもが家畜の餌を運んでいる。

家まではまだ遠いのかな。

📍 タンザニア・タンガ州

📅 2015年3月

📷 田中樹



放課後、お家に帰えろ

マサイの村の小学校。

放課後に家路につくこどもたち。

10km以上も離れたところに帰る子もいる。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



バケツでリズム

村を訪ねたらこどもたちが歌で歓迎してくれた。
バケツをたたいてリズムを取る。とても上手だよ。

📍 セネガル・南部

📅 2014年7月

📷 田中樹



ヤギと少女

山間部の村で
わずかな草を求めて移動する
少女とヒツジ。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年1月

📷 遠藤仁



ヒツジと少年

仕事中に一休み。

敷物の代わりに引き連れているヒツジ。

もふもふです。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年2月

📷 遠藤仁



草原のお花畑にて

長い冬に備えて、
家畜のエサにするために
草を集めるお手伝い。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2012年8月

📷 手代木功基



祈り

目を怪我した馬の一刻も早い回復を願う。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2013年8月

📷 手代木功基



Made in Japan?

ロバ車は荷物や人の運搬になお活躍している。
その後部には可愛らしい文字で日本車名が。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2008年10月

📷 手代木功基

夏休みの手伝い



小学校が休みになり、
家に戻ってきたこどもたちは
家畜の世話が日課。

📍 ナミビア・クネネ州 📅 2013年12月 📷 手代木功基



ラクダに乗って

季節移動する牧畜民のこども、
ラクダに乗って楽々移動。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2014年10月

📷 宮寺英寿

創造力を見習え！



何もないのではなく、
アフリカの豊かさに
私たちが気づかないだけなのかもしれない。

📍 ザンビア・南部州 📅 2016年10月 📷 石山俊

おみやげあげるよ!



家畜を連れて通りかかった牧畜民の子が、
おみやげにミルクを絞ってくれた。

📍 スーダン・ガダーリフ州 📅 2011年6月 📷 石山俊

ごはんまだ？



ザンビア南部州の主食はメイズから作られるンシマ。
ごはんはだれにとっても待ち遠しい。

📍 ザンビア・南部州 📅 2016年10月 📷 石山俊

サヴァンナの子

お父さんのサンダルを履いて、
ウシを追ってきたサヴァンナの子が、
空を一瞬仰いだ。

📍 スーダン・ガダーリフ州

📅 2011年6月

📷 石山俊



晩ごはんの薬味を調達するのは 僕の仕事

木の幹にたくさんなっている緑色の実は、
とても酸っぱくてスープの味付けに欠かせない食材。
こどもたちが木登りして調達し、お母さんに届けます。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年8月

📷 藤本麻里子

お父さんがとった魚



ブルキナファソ北東部の農耕民グルマンチェ。
農閑期には漁をする人が多い。

📍 ブルキナファソ 📅 2011年3月 📷 石山俊



砂丘の上の少女

この子は何をしているのでしょうか？

この地域の中でも美しい砂を誇る砂丘で、
彼女は家の中に敷く新しい砂を集めているのです。

📍 ニジェール・南西部

📅 2006年2月

📷 佐々木夕子



日傘を差した少女

陽射しが強くなってきたので日傘をひろげたんだ。

📍 インド・ナガランド州

📅 2014年12月

📷 遠藤仁



薪を運ぶ少女

一生懸命お家の手伝い。

📍 インド・ナガランド州

📅 2014年12月

📷 遠藤仁



笑顔

こどもの笑顔は素敵です。

📍 インド・オディシャ州

📅 2015年5月

📷 遠藤仁

気になるモニュメント

思わず「これは何?」と言いたくなるものに出会うことがあります。それは、昔々の人びとの暮らしの痕跡だったり、信仰の形だったり、遊び心を加えた芸術だったりします。どのような想いが込められているのかを考えることもフィールドを訪れる楽しみの一つです。





サハラ砂漠の岩絵

ニジェールのジャド高原にある岩絵。
たくさんの動物たちが描かれているのは、
むかし水と緑が豊かだったから。
ところで、この人間は、宇宙人？ それとも戦士？

📍 ニジェール・サハラ砂漠

📅 1998年12月

📷 田中樹



躍動感のあるカカシ

カカシ(案山子)は世界各地で見られる。
バリ島の棚田にあったこのカカシは、
微風でもゆらゆらとよく動く。

📍 インドネシア・バリ島

📅 2013年8月

📷 田中樹



ゴリラ、だよね？

私たちがよく知っている野生動物を
アフリカの人びとが見る機会はとても少ない。
ユーモラスな表情のゴリラ。
きっと、製作者は写真か映画を参考にしたのだろう。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2013年8月

📷 田中樹



記念写真

ミーソンの遺跡は、7世紀から13世紀にかけて
チャンパ王国の時代に築かれた建造物の遺構。
国内や海外からの訪問者が、思い思いに見学したり、
いにしへの暮らしに想いを馳せる。

📍 ベトナム・ミーソン遺跡

📅 2013年3月

📷 田中樹



小さな儀礼のあと

ザンジバルの人びとのほとんどはイスラム教徒だけど、
在来の信仰も息づいている。
これは何の儀礼だったのかな。
気を付けていないと見逃してしまいそうだ。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2014年7月

📷 田中樹



山岳少数民族

ベトナムの山間地に住む人びとは
ゴング（銅鑼）で音楽を奏でる。
それには精霊が宿るともいわれ、
とても大切な地域文化の一つとなっている。

📍 ベトナム・クアンナム省

📅 2012年2月

📷 田中樹



森の精霊？

ケーララ州の山間部には、
森林の下でカルダモンが栽培されている。
その森を歩いていたらふわりを目に飛び込んできたのが
白っぽい服で作ったカカシ。
精霊かと思った。

📍 インド・ケーララ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



神話の中の神様かな

バリ島の池で出会った石像。
苔をかぶって迫力ある風貌をしている。
何の神様かな？

📍 インドネシア・バリ島

📅 2013年8月

📷 田中樹



船に顔があってもいいじゃないか

ベトナムの沿岸やメコンデルタでは、
へさき（舳先）に目を描いた舟をよく見かける。
水難を防ぐためのおまじないかな。

📍 ベトナム・メコンデルタ

📅 2014年2月

📷 田中樹



村の神様だよ

鉄くずや石像、鉄像などが並べられている。
村びとに訊ねると神様として祀っているんだって。
廃棄物置き場ではなかったんだ。

📍 インド・ケーララ州

📅 2016年3月

📷 田中樹



苔むすサル

雨の多いバリ島では、
石造りの寺院や石像が苔に覆われている。
これはサルの神様かな。

📍 インドネシア・バリ島

📅 2013年8月

📷 田中樹



謎の巨人現る

ひょうたんの器をかかげて地面からのびる大きな手。
思わず「何じゃ、これ」と叫びたくなる。

📍 ブルキナファソ・バム県

📅 2011年1月

📷 田中樹



僕も働いてるよ、カカシだけど

畑を見守るカカシ。
よくできているので、
思わず「こんにちは」と挨拶してしまった。

📍 カンボジア・シェムリアップ市近郊

📅 2012年3月

📷 田中樹



一休さんのとんち

ジボの街中にて。

なぜか牛の絵がたくさん描かれています。

(一休さんの「屏風の虎」の頓智話より)

📍 ブルキナファソ・ロルム県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫

乾燥地の暮らし

温帯の湿潤な気候のもとで暮らす私たちにとって、乾燥地は、遠い世界に感じられます。緑に乏しい広漠とした風景は、一見すると、私たちを寄せ付けないような雰囲気があります。乾燥地の村々を歩いてき回ると、そんな印象とは正反対の、生き生きとした暮らしの風景が広がっています。





みんなで農作業

雨季の始まりを告げる何度かの雨のあとで、村人は畑に向かう。
トウジンビエの種を播き、芽が出始める頃に
「押しスキ」と呼ばれる伝統農具で行われる除草作業。
大人も子どもも一生懸命だ。

📍 ニジェール・テッサウア市近郊

📅 2016年6月

📷 田中樹



夕暮れ、家路を急ぐ

畑から収穫後のトウジンビエの稈を運ぶ女性たち。
日が傾き始めてきたので、
夕食の準備のためちょっと早く歩を進める。

📍 ブルキナファソ・北部

📅 2011年1月

📷 田中樹



ラクダで移動中

砂丘の麓で一休みする男たち。

柔らかく足を取られやすい砂の上を移動するには
ラクダが一番便利。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



井戸の順番待ち

村に井戸が一つしかないので
井戸の周りは順番待ちの人びとでいっぱい。

📍 ブルキナファソ・ウダラン県

📅 2011年1月

📷 田中樹



沙漠の宿

ナミブ沙漠に造られた観光客向けのホテル。
周辺の風景に溶け込むように、
同じ色の岩を使い、屋根を低くしている。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠

📅 2016年9月

📷 田中樹



村はずれのお家

スーダンの乾燥地を車で移動しているときに見かけた
質素なつくりの家屋。
誰がどのような暮らしをしているのだろう。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



噴出する水蒸気を集め 飲み水をつくる

地表に噴出した水蒸気を集めて水をつくる装置。
無味無臭の普通に飲める水だった。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年6月

📷 田中樹



放棄されたマサイの集落

マニャッタと呼ばれるマサイの人びとの伝統的な家屋。
壁は牛糞で塗り固められている。
地熱発電開発による立ち退きで誰もいなくなった集落。
修理されることもなく雨風を受けてゆっくりと朽ちてゆく。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



白い伝統

白い塊はチャド湖から持ってこられたという塩の塊。
北ナイジェリアに起源をもつハウサの商人が
商品として取引をしてきました。

📍 ブルキナファソ・ロルム県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫

フン集め

草原に散らばっている
家畜のフンは
貴重な燃料。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2013年8月

📷 手代木功基





牧畜民の家

牛フン、泥、モパネの木でできている家の中は
意外と涼しい。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2007年3月

📷 手代木功基



赤い泥は涼しい衣類代わり

暑さ厳しいナミビアで快適に暮らしているヒンバの女性。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2007年3月

📷 手代木功基



老人とナツメヤシ

イン・ベルベル・オアシスの最長老が、
立ち止まって老木を見上げた。

📍 アルジェリア・アドラル県

📅 2010年10月

📷 石山俊

収穫中

ナツメヤシの収穫期。
熟練した収穫人は引っ張りだこ。

📍 アルジェリア・ビスクラ県

📅 2015年11月

📷 石山俊

家畜とともにある暮らし

長い歴史の中で、私たちの暮らしは作物や家畜とともにありました。私たちは、自らが生きるために家畜の命を奪い食料や生活資材を得てきました。また、労働を共にする相棒でもありました。家畜や人びとの表情から、何か絆のようなものを感じることもあります。





おばあちゃん、ごはん頂戴

餌をじっと待つホロホロ鳥。

アフリカ原産のこの鳥は、ほとんど人に懐かないけれど、おばあちゃんのが大好きみたいだ。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2012年2月

📷 田中樹



アヒルの行商

ベトナムでは振り棒で行商する姿がよく見られる。
今日のお買い得品は、生きているアヒルたちだよ。

📍 ベトナム・中部

📅 2012年2月

📷 田中樹



ウマは暮らしの足

セネガルはアフリカのどこよりも馬を見かける。
荷車を引いて荷物や人びとを運ぶ。

📍 セネガル・西部

📅 2014年7月

📷 田中樹



早くおうちに着かないかなー

家畜の飼料を満載した荷車を引くロバ。
ロバも少年もちょっと疲れ気味。

📍 セネガル・西部

📅 2015年3月

📷 田中樹



ラクダに木の葉っぱを 喰わせてるんだ

ラクダに乗って移動中にちょっと一休み。

ラクダはその間に腹ごしらえ。

📍 スーダン・カッサーラ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



ヒツジと水浴び

ヒツジの前足を引っ張って川の中へ。
ヒツジは水浴びをちょっと嫌がっているけど、
何だか微笑ましい。

📍 スーダン・カッサーラ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



水浴びさせられる仲間を見る ヒツジたち

後ろ足を持って川に入れられるヒツジ。
それを仲間のヒツジが恐る恐る見ている。
次は誰かな？

📍 スーダン・カッサーラ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



乾季のかんがい野菜畑での蓄耕

牛2頭で犁を引き畑を耕す。
こどもたちも一生懸命お手伝い。

📍 ブルキナファソ・カヤ市近郊

📅 2011年1月

📷 田中樹



子豚を売りに行くところ

家の敷地で行う小規模な養豚では、
余った子豚をかごに入れて、バイクに乗せ市場に売りに出します。
熱中症にならないように日よけをしているね。

📍 ベトナム・フエ市近郊

📅 2012年9月

📷 田中樹



道路には車も家畜も

牧畜民がウシを連れて移動中。

インドの田舎道では、車もバイクも家畜も
渾然一体で進んでいるのをよく見かける。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



売られていくヒツジ

手作りのカゴにヒツジを載せ
バイクに括りつけて家畜市場へ。
ちょっとした現金が欲しいときは、
ヒツジやヤギなどを売ります。

📍 ブルキナファソ・カヤ市近郊

📅 2011年1月

📷 田中樹



脱皮

大きな家畜市が開かれるジボ。
牛の皮も貴重な産品です。
これは食用でガーナに輸出されるそうです。

📍 ブルキナファソ・ロルム県

📅 2010年2月

📷 清水貴夫



今日も引かせていただきます

ロバにスキを曳かせて植え付けの準備。

📍 セネガル・バンベイ県

📅 2014年2月

📷 清水貴夫



おさんぽ

ゆっくりと、悠々と。

ロバに乗ってどこへやら。

📍 ブルキナファソ・ナホリ県

📅 2013年1月

📷 清水貴夫



カウ・パーク

多くの牛が取引される七日市。
その数は数百頭に上ります。

📍 ニジェール共和国・コロ県

📅 2012年6月

📷 清水貴夫



ラクダも家族

ラクダも愛情を注げばなつきます。

「いいラクダだね」と褒めると

飼い主も笑みがこぼれました。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年2月

📷 遠藤仁

道はあっち

道に迷っていたところで、
立派なターバンをつけた男性が
道を教えてくれました。
ヤギで身動き取れませんが・・・。

📍 インド・ラージャスタン州

📅 2013年2月

📷 遠藤仁



駐象中

道路の片隅に車やバイクと共に駐象？ されています。
おとなしいので安全です。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2014年12月

📷 遠藤仁



雨季の水場

雨季の雨の後にあらわれる水たまりは
家畜の水飲み場として大切な場所となる。

📍 ナミビア・オシコト州

📅 2013年11月

📷 手代木功基



ウシを追う

ウシを放牧地から連れ戻すのは、
こどもたちの大切な仕事の一つ。

📍 ナミビア・オシコト州

📅 2013年11月

📷 手代木功基

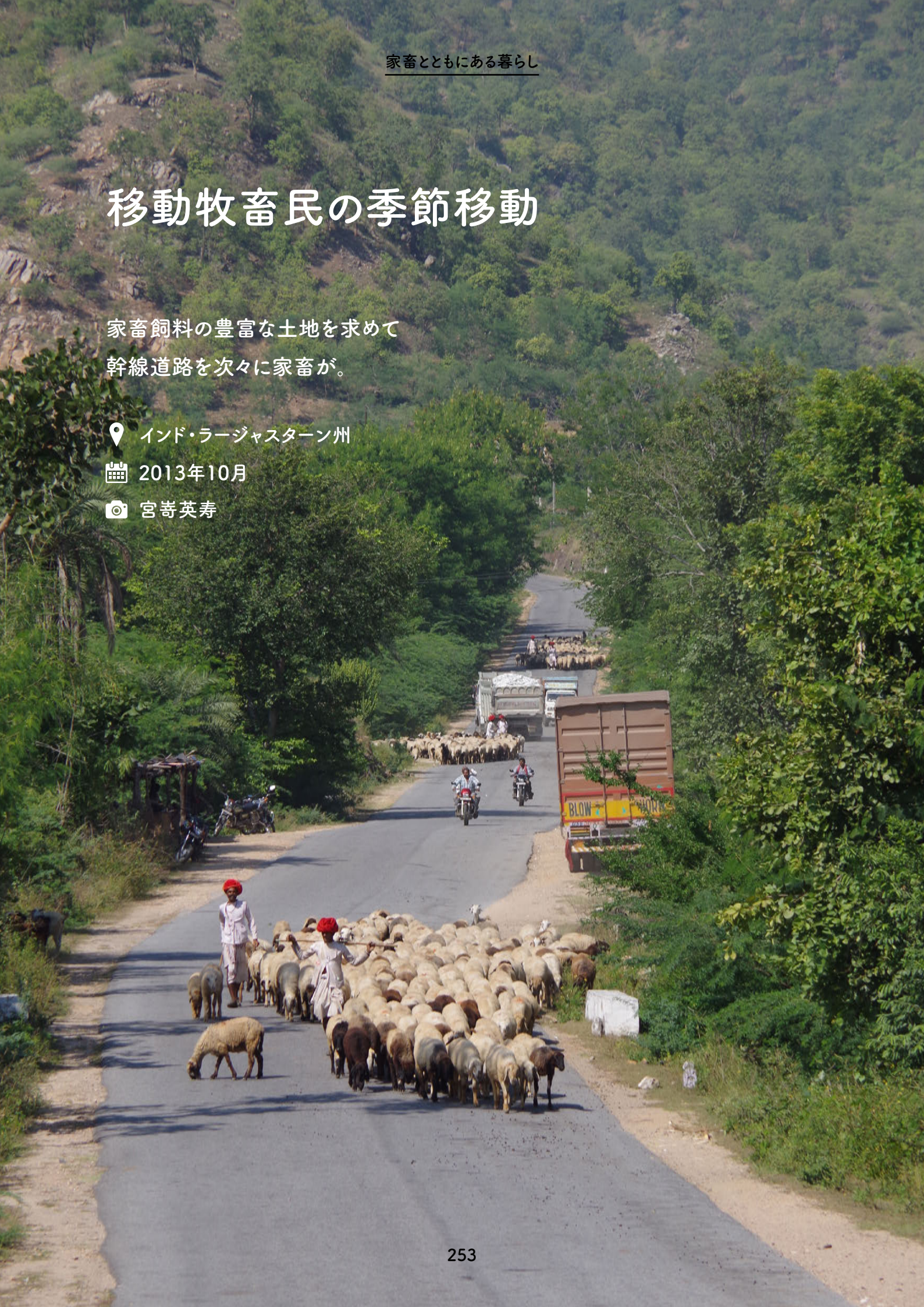
移動牧畜民の季節移動

家畜飼料の豊富な土地を求めて
幹線道路を次々に家畜が。

📍 インド・ラージャスタン州

📅 2013年10月

📷 宮寺英寿





移動牧畜民の朝

生活感の漂う移動遊牧民の朝の光景。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年10月

📷 宮寺英寿



並んで毛刈り

依頼を受けて大地主の家で毛刈りをする4人組。

📍 インド・ラージャスタン州

📅 2014年2月

📷 宮寺英寿



牧畜民の出作り小屋

集落から離れたところにある
雨季の出作り小屋。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年10月

📷 宮寺英寿



もちつもたれつ

牧畜民は家畜と一蓮托生。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊



放牧前

放される成ヤギ営地に残る子ヤギが離される。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊

サハラの朝



サハラの朝、ラクダ・レースのスタート前の緊張感が走る。
近隣から腕に覚えがある男たちが集まってくる。

📍 アルジェリア・アドラル県 📅 2010年6月 📷 石山俊

人駱駝一体



インベルベル・オアシスで
年に一度開かれるラクダレース。
出走前の一コマ

📍 アルジェリア・アドラール県 📅 2010年6月 📷 石山俊

ウシと畑とマンゴーと

家畜が農地で一晩を過ごす。
家畜はエサを得ることができ、
畑は肥料を得ることができる。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊



お留守番小屋

親ヤギの放牧中は
子ヤギたちは小屋でお留守番。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊



お留守番小屋引っ越し中

親ヤギの放牧中に使われる
子ヤギたちのお留守番小屋。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊



俺の家畜すごいだろ

ヤギを放牧中のスーダンの牧畜民。
ラクダは自分が乗る移動用。
写真を撮らせてといたらポーズをとってくれた。
ご自慢のヤギたちだ。

📍 スーダン

📅 2013年12月

📷 田中樹

ラクダのお尻



ラクダに載せる鞍が
どのように固定されているかを知るために
お尻のズーム。

📍 インド北西部・ラージャスターン州 📅 2013年1月 📷 宮寄英寿



ドナドナ

ベトナムの朝市で売られていた仔ブタ。

📍 ベトナム

📅 2012年3月

📷 宮崎英寿

ちゃんと横にいます



放牧の最中に薪とりをし、
家路に着く老女。

📍 インド・タミルナードゥ州 📅 2014年1月 📷 宮寄英寿



汲むものと飲むもの

畜力で水を汲み上げ、
灌漑水や飲み水として利用。

📍 インド北西部・ラージャスターン州

📅 2014年6月

📷 宮崎英寿



習うより慣れろ!

大きくなったら立派な牛飼いになるのかな。

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年3月

📷 石山俊



牛犁耕

コブウシの畜力を利用した犁耕作です。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2012年11月

📷 遠藤仁

印象に残る風景

美しい風景だけではなく日常のなかのありふれた一コマが心に残ることがあります。また、始めて訪れた土地や人びとの振る舞いに懐かしさを感じることもあります。それは、自身の想いがその風景に映りこむからなのかも知れません。





アザライの道を歩む

アザライとはサハラ砂漠の塩と
生活物資の交易をするラクダの隊商。
季節風・ハルマッタンに吹かれながら、
何百年も変わらぬ歴史の道をゆっくりと歩む。

📍 ニジェール・サハラ砂漠

📅 1998年12月

📷 田中樹



バオバブの下、テクテク歩く

葉を落としたバオバブの樹の下を
テクテクと歩く村人。
乾季のサバンナの風景だ。

📍 ザンビア・ザンベジ河流域

📅 2009年9月

📷 田中樹

砂丘の頂へ

強い風が吹き付ける中、砂丘の頂を目指す。

風紋が刻一刻と形を変え、巻き上げられた砂が風下に舞う。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠

📅 2016年9月

📷 田中樹



ごみ捨て場

アフリカの年近郊でよく見かける
ごみ捨て場のビニールやプラスチック。
かつて使われていた植物の葉で編んだ入れ物や紙袋は、
やがて土に還っていったけれど、
これらは分解が遅いのでいつまでもごみのまま。

📍 スーダン・中部

📅 2015年2月

📷 田中樹



奇想天外

奇想天外は不思議な植物。
滅多に雨が降らない砂漠気候で
何百年も生きると言われている。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠スワプコムンド近郊


📅 2016年9月


📷 田中樹




アフリカ最高峰

朝起きたら、雪をかぶったキリマンジャロ山が見えた。
頂上付近の氷河は年々小さくなり、
そのうち消えるかも知れないと言われている。

 タンザニア・キリマンジャロ州

 2014年3月

 田中樹



ザンジバルの漁村

空と海の青に彩られ漁を終えた舟が島の入り江で休んでいる。
のんびりとしたインド洋の浜辺に、
ヤシの葉ずれの音がかすかに流れてくる。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2012年11月

📷 田中樹

インド洋をちらりと見る

サンゴ石灰の壁と草ぶきの屋根、
咲き誇るブーゲンビリア。
小さな路地の隙間から覗く遠浅の海。
暮らじと自然が織りなすパステル画のようだ。

📍 タンザニア・ザンジバル

📅 2012年11月

📷 田中樹



緑したたる農村

幾重にも連なる水田とヤシの木。

人びとの暮らしと周辺の水や土や空気や植物が作り上げた風景。

私たちがほっとする環境の別名は「風土」なのだと実感する。

📍 インドネシア・ジャワ島

📅 2013年4月

📷 田中樹

ニジェール河の夕暮れ

西アフリカのギニアの山々から始まり、
マリのサバンナを通り、砂漠地帯をかすめ、
ニジェールからナイジェリアへと抜ける大河。
静かな日没の風景に、ねぐらに戻る鳥たちの声がかすかに響く。

📍 ニジェール・ニアマー市

📅 2015年2月

📷 田中樹



プールと海

バリ島のリゾートに行ってみた。
最近流行りのインフィニティ・プール。
空も海もプールも青い世界だ。

📍 インドネシア・バリ島

📅 2013年8月

📷 田中樹



みんな揃って結構式

プノンペンの街を歩いていたら結婚式に出くわした。

真ん中に新郎新婦。

周りの人も同じ衣装で嬉しそうに微笑んでいる。

📍 カンボジア・プノンペン市

📅 2012年3月

📷 田中樹



初雪

初雪の日、阿蘇の外輪山で見かけた小さな雪だるま。
誰がつくったのだろう、
小さなこどもにせがまれたお父さんかな？

📍 日本・阿蘇市

📅 2012年12月

📷 田中樹



映画の撮影風景

映画大国のインド。

車で移動していたら映画の撮影に出くわした。

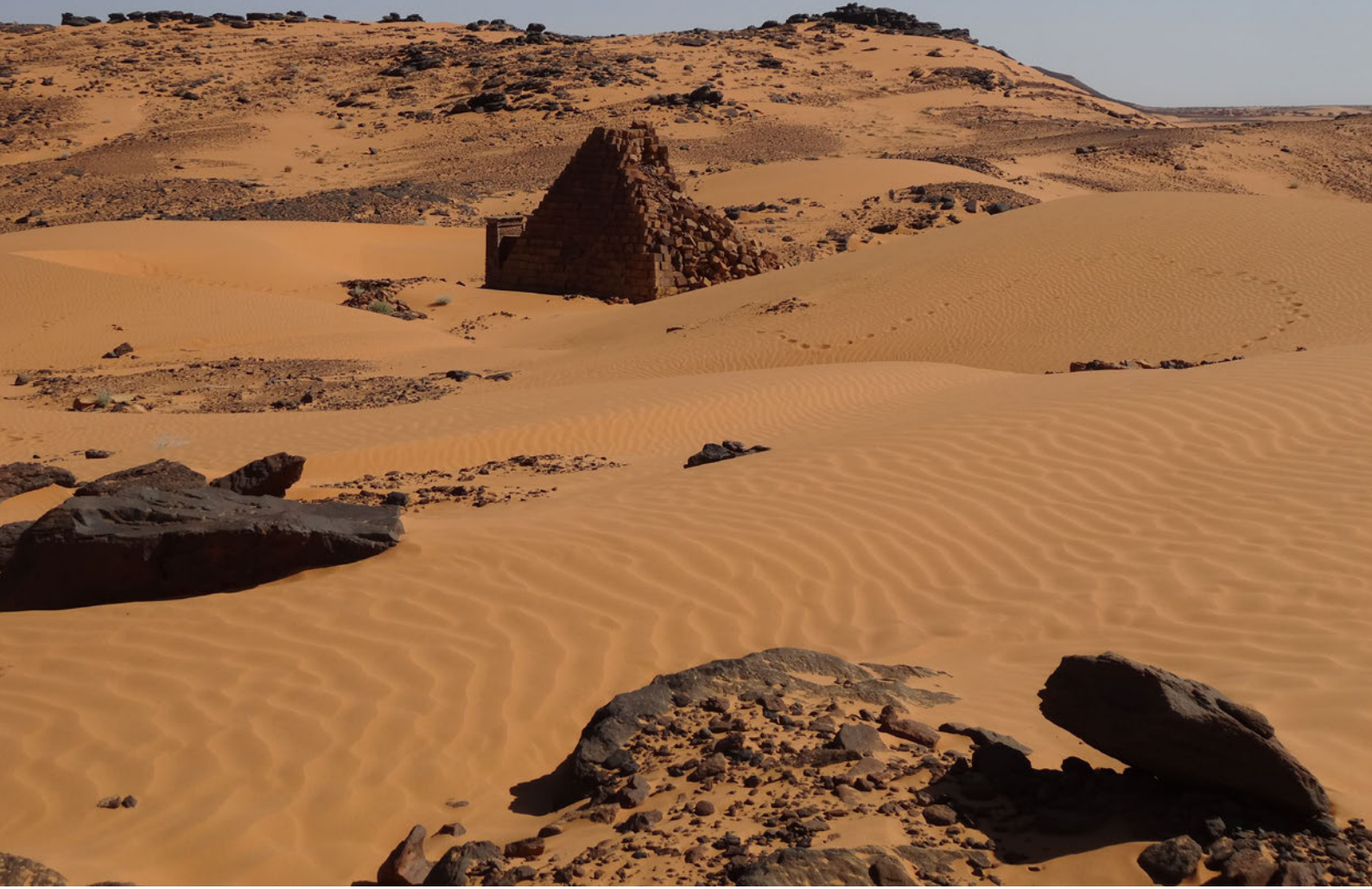
カラフルな衣装で遺跡のテラスに移動する出演者たち。

いつかどこかの映画館で出会えるかな？

📍 インド・タミルナードゥ州

📅 2015年4月

📷 田中樹



沙漠の遺跡

ナイル河沿いには古い時代の遺跡が数多く点在する。
かつての神殿だろうか、
砂漠の風と強い日差しのしたでゆっくりと崩れてゆく。
かつてここに人が住み、暮らしがあった。

📍 スーダン・中部

📅 2013年12月

📷 田中樹



沙漠を歩く観光客

ナミブ砂漠にあるデッドフレイ(Deadvlei)を目指す観光客。
現地という言葉で死の沼地という意味のその地には、
千年近く前にあった川の跡と立ち枯れた木々が残っている。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠

📅 2016年9月

📷 田中樹



神様にお供え

東南アジアに行くと、
満月や新月の日にお供えをする姿を見ることができる。
アスファルトやコンクリートで固められ
車が行き交うようになった街の辻にも
神様（あるいは精霊）がいるのだろうなあ。

📍 インドネシア・バリ島

📅 2013年8月

📷 田中樹



昔ここに街があった

紅海沿岸にあるサワーキンの街の跡。

サンゴ石灰で作られ、今は廃墟となったその街には、

かつて奴隷や金、象牙の取引や、

対岸のアラビア半島にあるメッカ巡礼に向かう人びとの港があった。

📍 スーダン・紅海沿岸

📅 2013年12月

📷 田中樹



赤い砂丘

世界で最も古い砂漠と言われるナミブ砂漠。

南アフリカのサバンナ地帯を流れるオレンジ川が大西洋に運んだ土砂が、

潮流に流され、海岸に打ち寄せられ、

風で内陸に運ばれてできたと言われている。

赤い砂は、古さのあらわれ。

📍 ナミビア・ナミブ砂漠

📅 2016年9月

📷 田中樹



冬景色

人間存在（文化）を中心におく環境学の形成と
地球環境問題の解決に資する研究に取り組む
総合地球環境学研究所。

その中庭に、湿った雪が静かに降り積もる。

📍 日本・京都市

📅 2015年2月

📷 田中樹



地熱発電所遠景

アフリカ大陸東部を南北に走るケニアのリフトバレー。

それに沿って、火山や間欠泉が分布する。

その地熱を使った発電が、グリーンエネルギーとして注目を集めている。

地熱発電所から立ち上る湯気。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年6月

📷 田中樹



地熱発電所近景

深さ2000? 3000メートルの井戸を掘り、熱い水蒸気を取り出す。
グリーンエネルギーともてはやされる地熱発電開発の陰で、
昔からこの土地に住まうマサイの人びとが
立ち退かされていることを知る人は少ない。

📍 ケニア・リフトバレー州

📅 2016年10月

📷 田中樹



道路工事

アフリカは遅れてきた経済発展に湧いている。
ビルや橋や道路が急ピッチで建設されている。

📍 ナミビア・ウイントフック市

📅 2016年9月

📷 田中樹



迫りくる砂嵐

砂嵐は、乾季の終わりから雨季の始めに見られる。
砂嵐が近づくと、一瞬あたりが静寂に包まれ、
やがて風が強まり、冷たい雨粒と砂が地面や木々をたたき、
風音が支配する暗闇にかわる。

📍 セネガル・カオラック市近郊

📅 2014年7月

📷 田中樹

赤いソルガムの穂



収穫されずに残されたソルガムの穂。
乾季に入ってから時ならぬ雨のしずくを纏っている。

📍 ザンビア・南部州 📅 2008年3月 📷 田中樹



朝露

朝霧ごしに見た青々とした小麦畑。
上下反転した世界は輝いて見えます。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2013年2月

📷 遠藤仁



古都の灯明

14世紀から続く古都カイロの市場
ハーン・ハリーリで見かけたランプ。

📍 エジプト・カイロ市

📅 2012年8月

📷 遠藤仁



象神様のお祭り (Ganesh Chaturthi)

インド西部を中心に雨季の終わりに開催される、
ガネーシャ神のお祭り。色付き粉をかけ合います。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2015年9月

📷 遠藤仁



山越えの霧

ベンゲラ海流によって冷やされた空気は、南部アフリカの西側に霧をもたらしている。

📍 南アフリカ・ケープ州

📅 2013年11月

📷 手代木功基



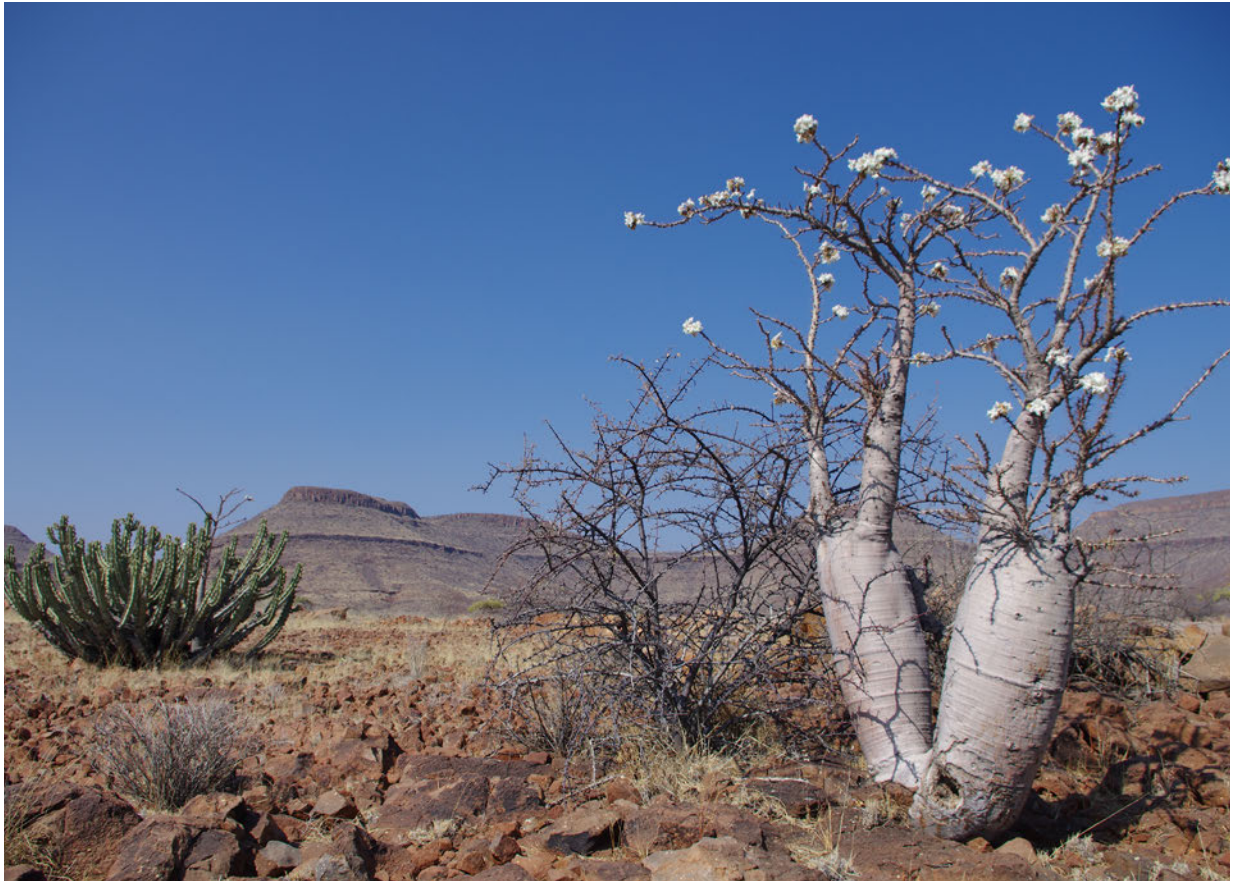
砂漠に生きるキリン

数年に一度だけ水が流れる季節河川は、
砂漠に生きる生き物にとって
無くてはならない自然環境となっている。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2012年10月

📷 手代木功基



砂漠に生きる植物

乾燥地の植物は、
わずかな水を使って生き延びるために
独特の形態となっている。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2012年10月

📷 手代木功基



緑の蝶

モパネという南部アフリカに生育する木の葉は蝶が羽ばたいているような形をしている。

📍 ナミビア・クネネ州

📅 2012年10月

📷 手代木功基

ベンゲラ海流にのって

ナミブ砂漠の沿岸部には、
ベンゲラ海流が流れる冷たい海に生きるオットセイが
コロニーを作っている。

📍 ナミビア・エロンゴ州

📅 2012年10月

📷 手代木功基





草の海に浮かぶゲル

広大な草原にぽつんと存在しているゲルは
海に浮かんでいるよう。

📍 モンゴル・ドントゴビ県

📅 2013年8月

📷 手代木功基



再生のための破壊

2014年10月のブルキナファソの政変で破壊された
旧政権関係者のホテル。

破壊されつくされたその後新たな国づくりが始まりました。

📍 ブルキナファソ・カディオゴ県

📅 2015年2月

📷 清水貴夫



盛者必衰の理

政変で最も破壊の激しかった前大統領の弟の邸宅。
時代は変わったのに窓の外の花は変わらずに。

📍 ブルキナファソ・カディオゴ県

📅 2015年2月

📷 清水貴夫



にぎやかな看板

看板だらけの町の一角。

ほとんどがごはん屋さんかカフェのもの。

📍 ベトナム・フエ市

📅 2016年1月

📷 田中樹



車道を行きかう人力車

だいぶ少なくなったけど
地方の街では人力車が残っている。

📍 インド・西ベンガル州

📅 2015年3月

📷 遠藤仁

Ganesh Chaturthi



お祭りのために練り歩く人びと。

📍 インド・ラージャスターン州 📅 2015年9月 📷 遠藤仁



御神体を担ぐ人びと

インドのお祭り。

色のついた粉を浴びてみんな真っ赤だ。

📍 インド・ラージャスターン州

📅 2014年9月

📷 遠藤仁